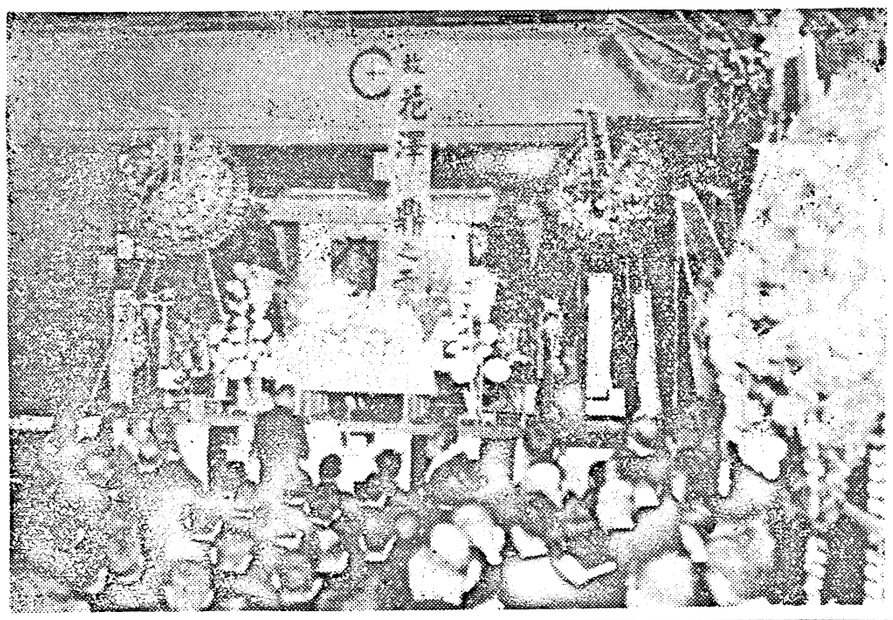
東京齒科大學同窓會報

東京都千代田区神田三崎町一ノ七
発行所
東京齒科大学同窓会
編集兼発行人
加藤倉三
電話九段(33)1000

數々の學勳殘して
齒科學界の至寶 花澤鼎教授逝去
悲しくも盛大な大學葬營まる

前号所報の如く豫て心臓疾患のため療養中であつた母校教授花澤鼎博士は佐々、池谷、鈴木各博士ならびに永年の親友黒須博士等の心魂を傾けての診療と令夫人を始め御親族、門下生等の手厚い看護を受けられたが二月十七日以來容體惡化し、過る十一月三日の彰功會の思い出も消えやらぬ二月二十二日午前〇時五分安らかに永眠せられた、享年六十七歳



同夜は御自宅においてしめやかな通夜がけれ翌二十三日、堀之内火葬場において茶毘に附し、御遺骨は二十五日まで御自宅に安置し同日午後三時、嘗て未だ人に捧持せられ、友人総代榎本美彦先生御写真を掲げられ、高教授御附添いにて霊柩車にて母校に御帰着、同夜六時三十分より母校における通夜が営まれ、同窓会友多數の焼香があつた。

二十六日午後一時半、内村鶴雄委員長、榎本同窓会長以下により盛大な母校大学葬が営まれた。中央大ホール正面祭壇上に御遺骨御遺影を安置し、吉川首相、高瀬文相、林厚相、増田官房長官、川口千葉縣知事、佐藤日赤会長、米國第八軍ホワイト中佐以下内外各方面より贈られた花環、盛花に飾られ葬場内は厳粛な雰囲気に満ち、令夫人を始め御親族一同、ジョンソン大佐、林厚生大臣、日本学術会議、在校学生代表有賀、同窓会友多數、在校学生代表有賀、榎本総務委員長の開式の挨拶、眞柴院住職以下の読経についで、別項記載の如き各方面よりの哀悼の情切々たる弔辞が読み上げられ、御遺族席はもとより、参列者一同感慨か口頭を拭い、偉大なる先生との訣別に胸の迫る思いであつた。

一、学長、哀悼の辞
二、文部大臣弔辞
三、厚生大臣弔辞
四、日本学術会議会長弔辞
五、千葉縣知事弔辞
六、日本齒科医學会々長弔辞
七、大日本齒科医学会々長弔辞
八、同窓会代表弔辞
九、父兄代表弔辞
十、学生代表弔辞

次いで焼香に移り、内村鶴雄委員長、有賀幸吉氏、鶴岡義明氏、鶴岡義明氏令夫人、ジョンソン大佐、厚生省官房長、日本学術会議会長、日本齒科医学会々長、日本齒科医学会々長、日本齒科医学会々

第七回歯科醫師國家試驗を繞る デマの眞相を衝く

去る四月三、四、五の三日間にわたつて、第七回歯科医師國家試驗が実施され、一週終了を見たが、これを巡つて巷間の一部に事実を誇張し、又は歪曲したデマが飛び一般大衆に誤解を惹き起していることは誠に歯科医学を愛するものにとつて無感と憤激にたえない。しかもそのデマの内容はことさらにわが東京歯科大学の歴史と名誉とを傷けようとする憎みてもあつるある過去邪しの下に作為的に流布されたものであることは明白である。われわれは今、それらのデマを一掃し、眞相を傳えるべく、わが編輯部において調査、整理し、これを率直に同郷各位の前に提供し事実に対する正確なる知識を得られるに役立つと共に上記デマの一掃排撃に協力されんことを切望するものである。

まず第一のねつこりは今次学説試驗中、数科目の問題の事前漏洩の事実の発覚に端を発する。数科目の問題とは生理学及び生理学の問題である。

周知の如く、歯科医師國家試驗学説試驗科目は現在十科目ありこれらの各科目毎に各四名の試驗委員が厚生大臣から委嘱され計四十名の試驗委員及びこれにならに試驗委員長（歯科医師國家試驗審議会委員長が兼務し、現試驗委員長は東京医科歯科大学教授橋本平氏である）を加え、総数四十一名によつて試驗委員会が構成されている。そして國家試驗問題に対する決定権は専ら試驗委員長にあり試驗委員にはない。従つて出題された問題に対する責任はあげて試驗委員長にある。ただし試驗委員長がすべての問題を一人で作製したり、選定したりすることは技術上実際には不可能であるゆえ、事実上は問題の作製を各委員長が各科目担当の専門委員に依嘱することになつている。各試驗委員長は委員長の依嘱に応じて各自五題ずつ自己の担当する専門科目の試驗問題を作製し、それぞれ問題委員会は更に問題選定の作業を行なつて、それぞれ問題委員会は更に問題選定の作業を行なつて、それぞれ問題委員会は更に問題選定の作業を行なつて